

交通ダイアリー調査を用いた山村住民の交通行動分析

愛媛大学大学院 学生員 三谷卓摩
 愛媛大学工学部 フェロー 柏谷増男
 愛媛県土木部 正会員 山内敏通

1. はじめに

山村では人口が少なく、人口密度が低いため住民サービスのための施設が不十分である。一方、山村といっても若い人々は、都市住民と変わらぬ生活スタイルを求めていると思われ、都市部への交通が不可欠である。そこで、山村地域の住民が日常どのような交通行動をしているであろうか。また、どの程度交通障害を乗り越えて都市部に出かけているであろうかということについて分析を行う。そのため、山村地域でも過疎化が深刻で、都市への交通障害の大きい愛媛県の美川村・面河村・柳谷村（上浮穴郡内3村）住民を対象とした交通ダイアリー調査を行い、松山、久万町住民の交通行動との比較することで山村住民の交通行動について明らかにすることが本研究の目的である。

2. 調査について

(1) 愛媛県上浮穴郡内3村の調査について

調査対象者は、学生をのぞく1世帯2人ずつ、愛媛県上浮穴郡美川村・面河村・柳谷村の各40人、合計120人である。調査期間は2000年10月20日(金)から10月26日(木)までの1週間である。調査用紙の配布・回収は3村の役場のとりまとめ責任者の方を通じて行った。その後、調査用紙のチェックを行い、記入漏れや不明な点については、調査用紙に再記入していただき、回収を行った。配布した調査用紙は、属性調査票と活動日誌票の2種類である。属性調査票は、世帯構成（構成員の性別・年齢・世帯主との続柄・職業・運転免許の有無）と世帯の自動車保有台数、自宅・職場・主な活動場所の位置を記入してもらい、活動日誌票には、移動時刻、活動内容、目的地、交通手段、起床時刻、就寝時刻、村内の活動場所などについて記入してもらっている。

(2) 比較調査について

松山市、久万町での交通ダイアリー調査は1999年5月20日(木)～5月26日(水)まで行われたものである。調査対象者は久万町が120人、松山市が60人である。調査は、3村の調査とほぼ同様の形で調査を行っているが、活動日誌票の調査用紙、配布方法が異なっている。久万町での調査は、役場のとりまとめ責任者の方を通じておこなっているが、松山市での調査は、愛媛大学の学生や先生方に配布し学校へ提出をお願いした。

(3) 調査地域について

図-1に調査地域を示す。今回の調査地域の美川村・面河村・柳谷村は、大部分の地域が標高400m～1000mで高知県境に接している。人口は、3村あわせて約4500人である。松山までは、距離約50km、1時間～1時間20分ぐらいの位置にある。久万町は、人口は約7000人で松山までは約45分である。これらの地域から都市部である松山への通行には標高710mの三坂峠を超えなければならず急勾配、急カーブが多く存在し障害となる。もうひとつの調査地域である松山市は、愛媛県最大の都市であり人口約47万人であり、都市の機能を備えている。



図-1 調査地域

キーワード:交通ダイアリー調査 山村住民 交通行動分析
 連絡先:〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番、089(927)9825、FAX089(927)9843

(4) 調査対象者について

調査対象者は調査の都合上、無作為抽出ではなく役場の職員を中心に調査をお願いしたので、上浮穴郡3村・久万町では、公務員と若い人が多くなっている。松山市では40、50代の割合が大きくなっている。

3. 調査結果について

表 - 1 平均トリップ数、平均ツアー数、外出率

地域	上浮穴3村	久万町	松山市
トリップ数	4.33	4.13	4.02
ツアー数	1.61	1.60	1.60
外出率	93%	97%	97%
対象日数	818	840	391

表 - 1 に平均のトリップ数・ツアー数、外出率を示す。平均のトリップ・ツアー数は、上浮穴3村、久万町、松山市ともあまり変わらなかった。上浮穴3村は、山村地域であっても活動的であると考えられる。外出率は、久万町、松山市の方がやや高くなっていた。これは、久万町、松山市では、近くに目的の施設があるので行動をおこしやすいことが考えられる。

表 - 2 に交通目的特性を示す。上浮穴郡内3村や久万町は通勤、個人宅訪問、地域の用事の割合が大きく、買物の割合は小さい。これは、昼食を食べるために自宅に一旦帰宅する人が多く、通勤トリップが増える。送迎・付き添いが多いのは、子供を持つ対象者が多く、学校・病院などの場所が遠いことが考えられる。個人宅訪問が多いのは、実家に帰る、松山にある子供・親戚・友人の家に行くことが多い。また、地域の用事が多いのは地域行事（集会・婦人会など）に参加することが多いことが考えられる。買物が少ないのは、松山なら毎日買物ができるのに対して、施設が存在しないため、まとめて買物をしなくてはならないからと考えられる。

表 - 2 交通目的特性

上浮穴郡内3村			久万町			松山市		
交通目的	トリップ	割合	交通目的	トリップ	割合	交通目的	トリップ	割合
通勤	645	19%	仕事	715	24%	通勤	221	14%
業務	466	13%				業務	137	9%
農林業	65	2%	農林業	83	3%	農作業	7	0%
送迎・付き添い	203	6%	送迎	107	4%	送迎	52	3%
買物	244	7%	買物	236	8%	買物	256	16%
外食	82	2%	外食	88	3%	外食	35	2%
通院	24	1%	病院	58	2%	病院	30	2%
地域の用事	82	2%						
その他私用	134	4%	その他私用	108	4%	その他私用	83	5%
個人宅訪問	181	5%	個人宅	90	3%	個人宅	50	3%
レクリエーション	133	4%	レクリエーション	269	9%	レクリエーション	144	9%
帰宅	1209	35%	帰宅	1240	41%	帰宅	578	36%
不明	12	0%	不明	24	1%	不明	4	0%
総数	3480	100%	総数	3018	100%	総数	1597	100%

図 - 2 に松山への平均ツアー数を示す。全体の松山への平均ツアー数は、上浮穴郡内3村で1.34回/週、久万町で1.60回/週で距離等の交通障害を考慮するとかなり大きいといえる。松山に距離が近い久万町の方が多く松山に行っている。年齢が若い人ほどツアー数が多い傾向も見られる。

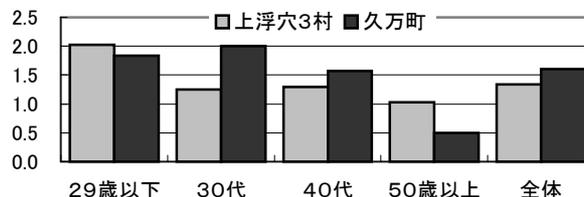


図 - 2 松山への平均ツアー数

表 - 3 仕事後の目的地

地域	上浮穴郡内3村				久万町				
	村内	久万	松山	その他	計	町内	松山	その他	計
総計	346	29	17	4	396	400	21	1	422
割合	87%	7%	4%	1%	100%	95%	5%	0%	100%

表 - 3 に上浮穴郡内3村、久万町の仕事後の目的地を示す。上浮穴郡内3村で松山へ行くのが4%、久万町では松山へ行くのが5%あった。

4. おわりに

山村住民は、他の地域の住民に比べて自宅にいて活動しないわけではなく、さまざまな活動を行っている。しかしその活動は、集会など地域の行事によるものや村外への移動などに時間を奪われている。松山までの距離にかかわらず同じように松山に出かけている。また、松山へのツアーは若い人ほど多く発生しており、仕事後の短い時間を利用する人もいる。山村住民にとって松山への道路の整備は重要であると考えられる。